

女伏

白秋全集
6

歌集
1

白秋全集 6

第二回配本(第1期 一、二、四卷)

一九八五年一月七日 発行

定価三四〇〇円

著 者 北 原 白 秋

発行者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋二丁目五
番 行 所 鐵 岩 波 書 店

電話(三三六)四二二〇
振替東京六〇六四〇

落丁本・乱丁本はお取替いたします

目次

『桐の花』

桐の花とカステラ 五

銀笛哀慕調 三

I 春 一四

II 夏 二〇

III 秋 二三

IV 冬 二四

初夏晩春 七

I 公園のひととき 六

II 郊外 元

III 庭園の食卓 〇

IV 春の名残 三

昼の思・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 壹

薄明の時・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 壘

I 放埒・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 罍

II 踊子・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 罍

III 浅き浮名・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 罍

IV 蟾蜍の時・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 五

V 猫と河豚と・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 五

VI 路上・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 罍

雨のあとさき・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 老

I 雨のあとさき・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 天

II 昼の鈴虫・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 三

秋思五章・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 壹

I 秋のおとづれ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 奕

II 秋思・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 奄

III 清元・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 充

IV	百舌の高音	七
V	街の晩秋	七
	植物園小品	七
	春を待つ間	八
I	冬のさががけ	八
II	戯奴	八
III	雪	八
IV	早春	八
V	寂しきどち	八
	白き露台	三
I	春愁	三
II	夜を待つ人	三
III	なまけもの	六
IV	女友どち	一〇
V	白き露台	一〇三

感覚の小函	iv
-------	----

哀傷篇	ii
-----	----

I 哀傷篇序歌	iii
---------	-----

II 哀傷篇	iii
--------	-----

III 続哀傷篇	iii
----------	-----

IV 哀傷終篇	iv
---------	----

白猫	iii
----	-----

ふさぎの虫	iv
-------	----

集のをはりに	iv
--------	----

挿絵

扉絵

桐の花とカステラ	v
----------	---

たんぼぼ	iii
------	-----

葱と紫蘇	vii
------	-----

螢	v
---	---

道成寺	．．．．．	四
銀座	．．．．．	七
上海	．．．．．	五
泊美藍と磁石	．．．．．	七
雪	．．．．．	八
白き露台	．．．．．	五
露のおきふし	．．．．．	一五
鳳仙花	．．．．．	二
白猫	．．．．．	三
昼の三味線	．．．．．	一四

欄 画

コピア外二十種

『桐の花』増補

『桐の花』翻刻新版

翻刻新版あとがき	．．．．．	一五
----------	-------	----

第二桐の花 一七三

銀笛哀慕調 一七四

春(一七四) 冬(一七五)

夏(一七五)

初夏晩春 一七六

初 夏(一七六) 晩 春(一七七)

薄明の時 一七八

雨のあとさき 一七九

秋 思 一八〇

春を待つ間 一八一

白き露台 一八二

第三桐の花 一八三

春 一八四

夏 一八五

秋 一八六

冬 一八七

初 出(雑誌・新聞)

〔一九〇二(明治三五)年〕	虹 一首(101)	無題 一首(101)	101
	その影 三首(101)	秋の歌 二首(101)	
	白露紅萩 二首(101)	無題 一二首(101)	
〔一九〇三(明治三六)年〕	無題 二六首(103)	無題 一八首(103)	103
	無題 一六首(104)	無題 二九首(10)	
	無題 一六首(105)	無題 一五首(10)	
	無題 一四首(106)	無題 六首(10)	
	無題 二二首(107)		
〔一九〇四(明治三七)年〕	無題 一二首(104)	〔野分〕 六首(104)	104
〔一九〇七(明治四〇)年〕	〔新詩社詠草〕 六二首(110)	新詩社詠草 九一首(11)	116
	〔新詩社詠草〕 二二首(110)		
〔一九〇八(明治四一)年〕	吐息 八首(116)	薄暮 一〇首(116)	116
〔一九〇九(明治四二)年〕			110

もののあはれ 六三首(三〇)

哀調 四二首(三三)

密語 一一首(三四)

〔一九一〇(明治四三年)〕……………二六

ある日のつかれ 一六首(三三)

微光集 一六首(三三)

蒜の花 一六首(三九)

「創作小集の記」より 二首

一九一〇暮春調 三四首(四〇)

(二三)

春の SUGGESTION(小品)

皮膚の痛み 四五首(四三)

(四三)

秋のおとづれ 五二首(三七)

桐の花とカステラ(小品)

秋日三章 二六首(六六)

セルの薄地 一六首(四五)

〔一九一一(明治四四年)〕……………二六

新声二十五章 二五首(六三)

なまけもの 二六首(六六)

病院より 二六首(六四)

羽毛襟巻 一二首(六八)

〔一九一二(明治四五・大正元年)〕……………二七

思ひ出の時 一二三首(七〇)

といき 三首(七四)

戯奴 一二首(七二)

たぐる毛糸 一首(七五)

「心」 一二首(七二)

おしろい 一首(七五)

五月 一首(七四)

春のおもて 一首(七五)

暮春 一首(七四)

ヒヤシンス 一首(七五)

「勿忘草」 一首(七四)

春愁 一首(七六)

宝石商 一首(七四)

夜曲 一首(七六)

珈琲一首(三七)

媚薬一首(二六〇)

吹上 一首(三七)

リペリヤ 一首(二六〇)

白百合 一首(三七)

自棄 一首(二六〇)

水注 一首(三七)

感覚の小函(小品)(二六〇)

いつとなく 一首(三七)

哀傷篇 三三首(二六三)

昼見えぬ星 一首(三七)

秋——冬

わかれ 一首(三七)

〔キヤベツの球〕 三首(二六七)

夏 一首(三七)

続哀傷篇 三二首(二六七)

青玉 一首(三七)

無題 一首(二九〇)

午後 一首(三七)

その折ふし 二三首(二九〇)

年増のなげき 一首(三七)

暮春 枇杷 郊外 五月 葱

紫陽花 一首(三七)

河豚 路上 晩夏 秋の葉 夜

蟾蜍 一首(三七)

を待つ人 時雨ふるころ 河岸

河豚 一首(三七)

のあけくれ 人妻

とまり木の鳥 一首(三七)

〔果実〕 一首(二九三)

白き猫 一首(三七)

哀傷篇抄 二二首(二九三)

秋の葉 一首(三七)

無題 一首(二九五)

雪 一首(三七)

昼の思(小品)(二九五)

母 一首(三七)

〔やもめの伯母〕 五首(三〇一)

〔一九一三(大正二年)〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ふさぎの虫(小品)(三〇四)

白猫(小品)(三七)

哀傷篇拾遺 二七首(三三)

三崎俗調 二六首(三六)

落日哀歌 一九首(三九)

〔青き瞳〕 三首(三〇)

畑三趣 一四首(三一)

泥豚 二〇首(三二)

〔一九一四(大正三)年〕 三四

地面と野菜 一七首(三四)

闇魔の反射 一六首(三五)

人を喰ふ神様 五六首(三六)

第一段 曼珠沙華中の食人 第

二段 鬼子母神墮落 第三段 子

を掠はる 第四段 一念発起

山海經 五〇首(四〇)

その一 狐のかみそり その二

海光 その三 ある時は その

四 曼珠沙華

金柑の木 五首(四四)

水辺午後 三八首(四四)

同じく晩秋 金柑遺抄 痴語

洋燈のかげ

臨海小景 八首(四七)

山中秋景 八首(四八)

見桃寺抄 二〇首(四八)

雪夜発願 雪後

雲母集 五二首(三五〇)

崖の上の歎語 眼鏡橋 蓴菜

隣の厨 風吹く櫓 赤き鳥居

大電導機 八首(三五四)

満月 八首(三五四)

童子抄 八首(三五五)

遠樹抄 一〇首(三五六)

満月余光 八首(三五六)

鰻 八首(三五七)

不尽の山 八首(三五八)

無題 一首(三五九)

無題 一首(三五九)

漣 一首(三五九)

赤硝子 一首(三六〇)

〔一九一五(大正四)年〕 三六

田舎道 一〇首(三二)

麗日発心 一〇首(三二)

不二の雪 六首(三二)

城ヶ島 一〇首(三三)

馬の灸 九首(三三)

薔薇静観 一〇首(三三)

急須と茶碗 一〇首(三三)

金竜山雪の曙 一〇首(三三)

澄心偈 二四首(三三)

鴉 捨身一品 暗夜感電 満月

心願 麗日異抄 齒痛抄

聴光篇 一一首(三八)

春色辰巳雪 八首(三八)

聴光篇 一〇首(三〇)

石版職工 八首(三七)

〔二人一首選〕 一首(三七)

麗日傷心 一〇首(三七)

木がらし 七首(三七)

蟹味噌 七首(三七)

雲母抄 一七首(三七)

鴉 三崎雜詠 二本の棕櫚 黒き

花瓶 小景

飛躍篇 一五首(三七)

卵 大鴉遺抄 犬 魚介三首

薔薇

三崎風景 一七首(三七)

澤の雨 油壺晚景 八景原

〔一九一六(大正五)年〕……………三九

雀と蓮花 八首(三九)

山家抄 八首(三九)

秋 四首(三九)

家常茶飯 七首(三九)

雪暁 八首(三八)

雀の宿 八首(三八)

芝山内 八首(三八)

〔故長塚節一週忌歌会〕 四首

(三八)

霜の夜声 一一首(三八)

父と母 二四首(三八)

椎の葉の雪

夜明の鶴 一二首(三六)

小笠原の夏 五首(三七)

春のめざめ 八首(三七)

石臼と杵 八首(三八)

雀の卵 八首(三八)

高山の雪 八首(三八)

卵わりつつ 八首(三八)

竹林閑居 八首(三八)

冬の山水 八首(三八)

隣の盆景 八首(三八)

永日 八首(三八)

深山鈴蘭 八首(三八)

塩剣の香 八首(三八)

沙羅の木 八首(三八)

朝 八首(三八)

霰と雀 八首(三八)

茂吉に寄す 三首(三八)

中臣の大祓 一首(三八)

茶の煙 一首(三七)

深簀 一二首(三八)

しのめの雪 一首(三八)

時雨 世の中

冬日閑居 一二首(四〇)

林檎 一七首(四〇)

母の手 はだか襦 日の暮

鞠あそび 一二首(四〇)

白木蓮花 一〇首(四〇)

真間の閑居 三首(四〇)

飯を食みつつ 三一首(四〇)

馬なれば 雪夜 述懐三首

閻魔の咳 四七首(四〇)

永日 道灌山 飛鳥山 雪暁

寒夜 葛飾 白藤 ある時 か

りそめごと 財布 沙羅の花

曼陀羅村

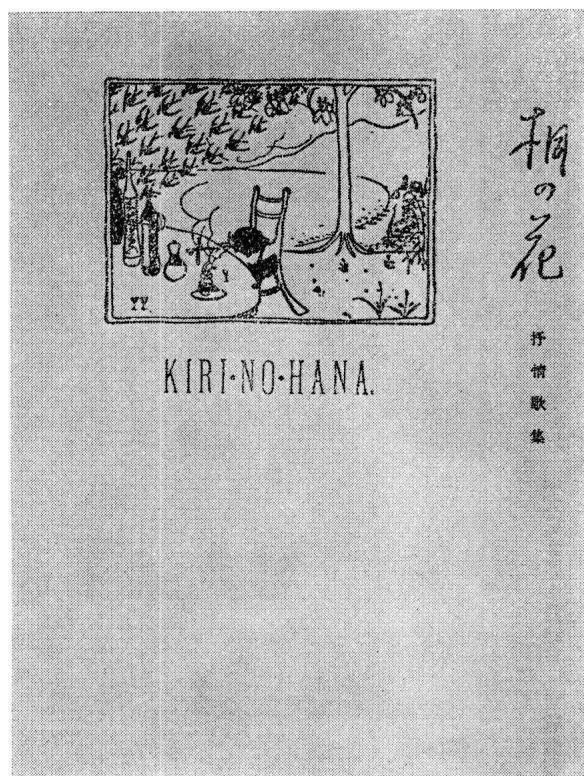
田園の立秋 九首(四二)

雀のお宿 一六首(四三)

校 異 四二五

後 記 四三

『桐
の
花』



〔カバー表紙と背〕

〔大正2年1月25日 東雲堂書店刊〕